

平成 19 年度 教育 研究 業績 書

氏名 岩崎 敬二

最終学歴	1989年3月京都大学大学院理学研究科動物学専攻単位取得満期退学
取得学位	理学博士（京都大学 理学部）
所属学会	日本ベントス学会、日本貝類学会（評議員・学会誌編集委員）、応用生態工学会（学会誌編集委員）、日本生態学会（自然保護専門委員会・外来種問題検討作業部会）、日本陸水学会、個体群生態学会、動物行動学会、野生生物保護学会、陸水生物研究会、兵庫淡水生物研究会、
現在の専門分野	動物生態学、保全生物学
研究課題	外来海洋・淡水生物の分布、生態、被害、リスクアセスメントおよび防除に関する研究
<p><b>【研究上の特記事項】</b></p> <p>（1）平成18? 20年度科学研究費補助金基盤研究C「外来海産軟体動物2種が在来生物群集に及ぼす影響の実験的解明」研究代表者。（2）環境省受託研究・地球環境研究D-072プロジェクト「大型船舶のバラスト水・船体付着で越境移動する海洋生物の動態把握と定着の早期検出」のアドバイザー。（3）日本水産学会誌特集「水産業と外来種」企画編集者、（4）陸水学雑誌特集「外来淡水産底生無脊椎動物の現状と課題」企画編集者。</p>	
<p><b>【教育上の特記事項】</b></p> <p>講義では、常にコンピューターを用いてPpower Pointなどのプレゼンテーション用ソフトやビデオ資料を使用し、写真や図表や動画を示しながら視覚的・聴覚的にわかりやすいよう工夫を凝らしている。環境演習では、野外調査を何度も実施して、自然体験の少ない最近の学生たちに、健全&amp;不健全な自然環境を体験・理解できるよう努力している。また学会の自然環境保全委員会委員長や行政招集の委員などを幾つも務めた経験から、政治、行政や産業界の環境問題に対する取組の現状についても紹介している。</p>	
<p><b>【社会的活動】</b></p> <p>環境省「特定外来生物選定専門家グループ会合（無脊椎動物）」委員、京都府外来生物実態調査委員会委員、日本貝類学会評議員、日本貝類学会・学会誌編集委員、応用生態工学会・学会誌編集委員、日本生態学会自然保護専門委員会・外来種問題検討作業部会委員、環境省受託研究・地球環境研究D-072プロジェクト「大型船舶のバラスト水・船体付着で越境移動する海洋生物の動態把握と定着の早期検出」のアドバイザー</p>	
<p><b>【学内活動】（学内職歴を含む）</b></p> <p>教養部教務委員長、機構改革委員会教養部代表委員、教養部現代GPプロジェクトワーキンググループ座長、生物研究会・天文同好会・放送研究会等文化会クラブや多数のサークルの顧問</p>	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 「レイブン・ジョンソン 生物学 (下)」	共著	2007年5月	培風館	54章「群集生態学」1161-1182頁の翻訳をした。
(学術論文) 日本における海産外来生物問題と公的機関の対応	単著	2007年4月	日本プランクトン学会報、54巻、17-24頁.	海産外来生物の現状把握と対策に関する環境省、国土交通省、農林水産省の取組と姿勢を分析した。
日本に移入された外来海洋生物と在来生態系や産業に対する被害について	単著	2007年11月	日本水産学会誌、73巻6号、1121-1124頁.	海産外来生物が、在来生態系と、特に水産業に与えている被害について分析・報告し、その防除やリスクアセスメントについてまとめた。
生態系サービスの視点からみた移入種問題と今後の展開	共著	2007年11月	日本水産学会誌、73巻6号 1155-1159頁.	生態系サービスを促進する水産業のあり方と、それに対する外来種の影響・利用の仕方などの現状を分析し、将来への展望を示した。
外来淡水産無脊椎動物に関する特定外来生物の選定過程と研究上の問題点について	単著	2007年12月	陸水学雑誌、第68巻、497-500頁.	外来の淡水産無脊椎動物の分布や被害の把握を行政がいかに進めていないかを報告し、特定外来生物の選定と研究上の問題点をまとめた。
(学会発表) イシマキガイの小河川における集団遡上と移動分散様式	共同	2007年4月20日	日本貝類学会平成19年度大会	海岸から淡水域にかけて生息するイシマキガイの集団遡上行動と追従移動・分散の様式について、ポスター発表を行った。
海産・淡水産無脊椎動物の分布お把握状況と関連学会の取組	単独	2008年3月14日	第55回日本生態学会大会自由集会「外来生物の分布拡大予報」	海産外来種の分布把握に関する日本ベントス学会の取組を紹介し、数種の海産外来種の分布の拡大を予報した。
「生物学的侵入の分子生物学：分子マーカーを用いて外来生物の侵入生態を探る」コメント	単独	2008年3月16日	第55回日本生態学会大会企画集会「生物学的侵入の分子生物学：分子マーカーを用いて外来生物の侵入生態を探る」	コメンテーターとして、外来生物の侵入生態学に歴史と現状を振り返り、将来に向けての課題をコメントした。